

松前町
アーバンスポーツ施設整備
基本構想

令和8年8月

松前町

1 はじめに

人口減少や少子高齢化、地域の担い手不足が深刻化する中で、町民が世代を超えて集い、交流し、地域の活力と誇りを共有できる「まちの舞台」の創出がこれまで以上に求められています。

こうした中、本町が松山平野の中核として備え持つ交通・商業のハブ機能という卓越した地域的優位性は、都市再生を加速させる大きな原動力となります。現在、松前駅前再開発や義農公園の再整備を進めていますが、愛媛県内の整備が検討されているアリーナとの相互効果や、さらにこの立地ポテンシャルを最大限に活用し、新たな人の流れと経済・文化の好循環を生むことで、若者を中心に全国的に広がるアーバンスポーツ文化をまちづくりに取り込み、地域の賑わい・交流・防災を兼ね備えた複合型の都市拠点形成するものです。松前町全体の都市機能強化、地域経済活性化、文化創出の拠点となることを目指します。

なお、本構想は施設整備の基本的な方向性・理念・枠組みを示すものであり、具体的な整備内容については、本構想に基づき別途計画を定めるものとします。

また、別途計画の策定にあたっては、必要な調査・検討を重ねた上で、地域の実情や財政状況に応じた、持続可能な施設の規模・形態・運営体制を判断するものとします。

2 構想の背景と目的

【背景】

東京 2020 大会以降、スケートボード・BMX・ストリートバスケットボール等のアーバンスポーツは、若者の自己表現や地域交流の新しい形として急速に広がっています。松前町においても、若年層の活動拠点不足や、地域内外の交流機会の限定などが課題となっていました。

こうした中、令和 6 年 8 月に実施されたこども議会においてもスケートボードパークの整備について答弁があり、令和 7 年 7 月には町議会を通じてアーバンスポーツ施設整備を求める 11,255 件の署名が添えられた要望書が提出されたことから、これらの切実なニーズに応え、誰もが安全で自由に利用できる公共空間の整備が求められています。

【目的】

- 若者の創造的活動の場を提供し、地域に新たなカルチャーを育む。
- 町民・来訪者の交流・賑わいを創出し、地域経済を活性化する。
- 災害時には一時避難地・物資集積地として機能する防災拠点とする。

【上位・関連計画との整合】

- 松前町総合計画 ：若者・子育て・健康・防災・文化の連携強化
- 松前町都市計画マスタープラン ：広域都市圏における拠点整備

3 整備方針とコンセプト

【基本理念】

『まさき型アーバンカルチャー拠点』～日常と非日常が交差するまち～

【整備方針】

- 若者が主役となる参加型施設運営の実現（学生・地域団体・町協働）
- エミフル MASAKI 周辺との回遊性・滞在性の向上
- 地域防災・環境共生型の空間設計
- 地域経済・観光への波及（イベント誘致、交流人口増加）

【整備コンセプト】

“OPEN & CREATIVE PARK”

- オープンで誰もが利用できる自由な空間の確保
- 競技者のみならず、観覧者・通行人など年齢問わず多様な人々が自然に集い、挑戦と感動を共有できる文化的空間
- スポーツ、エンターテインメント、地域交流が融合
- 安全で環境に優しい設計

4 整備内容の想定

【敷地条件と特性】

- 松前公園、エミフル MASAKI、伊予鉄古泉駅周辺を想定。
- 平坦地で排水良好、商業エリアとのアクセス性が高い。
- 災害時は防災拠点、物資集積場所などの活用も可能。

【想定されるゾーニング構想】

- アクティブゾーン：スケートボード、BMX、ストリートバスケット
- パッシブゾーン：駐輪場、管理棟、休憩・飲食エリア

なお、各ゾーンは機能上の区分を示すものであり、視線・動線・空間の連続性を確保し、異なる目的を持つ利用者が同一の景色の中で自然に共存できる一体的な空間構成を目指します。

【環境・防災設計】

環境・防災に配慮した設備設計とし、災害時の物資集積などに対応。

5 運営・管理構想

【運営方式】

- 町が整備・所有し、DBO 方式（設計・工事・運営を一括して依頼）で民間運営を検討。
- 各種スポーツ協会・団体との連携。
- 企業スポンサー連携による地域経済循環モデルを構築。

【管理方針】

- 監視カメラや巡回による安全確保
- 地域協働清掃や防災訓練イベントの開催
- SNS・アンケートを通じた利用者フィードバックの収集・改善

6 想定されるスケジュールと財源構成

【スケジュール（案）】

- 令和7年度：検討委員会設置・検討開始
- 令和8年度：基本構想策定、意見調査、民間事業者調査開始
- 令和9年度：整備計画策定、施工準備
- 令和10年度：設計・工事着手（令和11年度までに完成目標）

【想定される財源構成】

- 交付金：補助対象経費に対して補助率 1/2
- 地方債：充当率 90%のうち交付税措置 30%
- ふるさと納税・民間寄附・クラウドファンディング活用
- その他助成金なども検討

7 想定効果と将来展望

【想定効果】

➤ 経済・産業活性化への寄与

隣接する商業エリアとの相乗効果により、広域からの新たな来訪者層を創出し、町内での回遊性と滞在時間の延長を促します。

また、エンターテインメント性の高いイベント誘致や民間活力の導入を通じて、地域経済の循環を加速させるとともに、周辺不動産の価値向上や新たな雇用機会の創出など、多角的な産業波及効果が期待されます。

➤ 次世代育成とシビックプライドの醸成

若年層が主役となる創造的な活動の場を提供することで、自己表現や社会参画の機会を創出し、地域に根差した新しい文化を育みます。

また、教育機関や地域団体との緊密な連携により、多世代が交流するコミュニティを形成し、松前町に対する愛着（シビックプライド）と定住意欲の向上を図ります。

➤ 地域防災力の抜本的強化

災害発生時の緊急物資の集積・配送拠点としての機能を確保するほか、日常的なスポーツ・レジャー利用と防災訓練を融合させることにより、町民の防災意識を高め、安全・安心なまちづくりの基盤を構築します。

【将来展望】

本構想は、愛媛県内に建設が検討されているアリーナや周辺商業機能と連携しながら、広域的な拠点形成を目指します。

また、アーバンスポーツを核とし、スポーツ・観光・防災が融合した「持続可能な地域モデル」を確立することで、魅力ある都市拠点を発信します。

施設整備に関する具体的な規模・設備・時期などについては、社会情勢や民間事業者の参入見込み・財政状況・用地確保の見通しなどを総合的に勘案して判断します。仮にこれらの条件が整わない場合においても、誰もが気軽に集えるオープンなパークとして小規模に整備することで、アーバンスポーツ文化の拠点を確実に形成し、この取り組みを礎として、将来的な転機をとらえながら段階的な実現を目指します。